

甲斐市立竜王小学校 学校関係者評価書

令和6年2月9日（金）

甲斐市立竜王小学校 学校関係者評価委員会作成

学校関係者評価委員会

実施日：令和6年2月9日（金）

参加者：学校評議員 森澤ひとみ・篠原美代子・碓井 和幸・小尾 平明・萩原 健一

P T A会長 手塚 友巳・副会長 森澤 陽美

学 校 側 校長 進藤 雅一・教頭 平沼 公香・教務主任 野村美代子

I 学校側から提案された内容

〈教職員自己評価書について〉

- 1 達成状況について
- 2 改善策について
- 3 まとめ

II 協議された主な内容

- 1 全体の概要について
 - (1) 教職員自己評価について
 - 39項目中37項目で肯定的評価が90%以上であり、教職員自己評価が良好であること。肯定的な評価は変わらないが、B評価が増えた。教職員の質の向上を求める傾向が強くなり、評価が厳しくなっていること。
 - (2) 小学生アンケートについて
 - 「学校は楽しいですか」の肯定意見が昨年度から90%台となり、多くの児童が学校生活に満足している状況であること。「人が困っているときは、進んで助けていますか」など8項目で昨年度よりも肯定的な回答が増えたこと。
 - (3) 保護者アンケートについて
 - 「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」の肯定意見が約90%であり、好意的な評価であること。「お子さんのことで相談できる先生がいますか」など13項目で昨年度よりも肯定的な回答が増えたこと。
- 2 学校教育目標・学校経営について
 - 学校教育目標をもとに、共通理解の中でより効果的・効率的な学校経営や教育活動を目指し、チーム学校として主体的な取組を進めること。
 - 多様化する児童への対応に、限られた教職員の中でより効果的な支援体制を取ることに苦慮していること。誰一人取り残すことがないように、児童のニーズに応じた合理的配慮等、学校体制で検討し協働していくこと。
- 3 学校運営について
 - 組織としての取組を主体的に進められるように、教職員個々の活動が、学校全体を俯瞰した面としての取組となるように推進していく。

- 校内研究について、「分かる授業の創造」の一手段としての ICT 活用であることを再確認し、今後も効果的な活用方法を探り、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業改善を進めていくこと。
- 働き方に関する意識は高まりつつあるが、新しい時代に合わせた教育活動の質の高さへのアプローチについて、さらに検討・改善を図っていくこと。

4 学習指導について

- 「学校の授業が楽しい」「授業の内容がわかる」の回答が上がってきたこと。様々な経験値を有する教職員関係の中で授業力向上に努めてきていること。さらなる授業改善に向け、教材研究の時間確保が課題であること。
- 「やまなしスタンダード」の推進により、観点別評価規準を明確にし、指導と評価の一体化を目指した授業づくりへの取組が進んできていること。
- 家庭学習は定着してきているが、今後も「家庭学習の手引き」などを活用し、保護者と連携を図りながら家庭学習のさらなる充実を図ること。

5 生徒指導について

- 「学校に相談できる先生がいる」と回答した児童・保護者の割合が増え、信頼関係を構築する中で教育活動が推進できていること。
- キャリア教育について、日々の係活動や清掃活動、外部人材を積極的に活用した取組等を通して、社会参画意識を高めていくこと。キャリアパスポートを活用し、夢や志をもってキャリアプランニングできる力を育てること。
- 児童が安心安全に登校できる、居場所のある学校・学級づくりを進めること。児童の自己肯定感や自己有用感等を育てることで、よりよい判断・行動ができるようにすること。多様化・複雑化する課題の早期発見に努め、組織的な対応ができるよう、各機関と連携しながら解決にあたっていくこと。

6 地域との連携について

- 地域や外部機関の活用場面を再検討していること。日常では、保護者や地域住民による登下校の見守り等で協力を得ることができたこと。
- 学校からの情報発信として、安心メールとホームページを連携させ、積極的に活用すること。内容や運用方法について、改良を重ねていくこと。
- P T A 主催行事や地域と連携した取組について、これまでの実績を生かしながら継続し、活性化を図ること。

7 学校の特色に関して

- 本校の特色について、学校経営方針の共通理解のもと、継承・改善しながら組織的に取り組んでいくこと。

8 創甲斐教育について

- 各教科における言語活動の充実に向けた取組について、校内研で再確認しながら、継続して取り組んでいくこと。授業づくりに関して「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、改めて実践を重ねていくこと。
- 創甲斐教育をもとに「相手のよさを自分の言葉で表現する」取組については、低学年から継続してクラスで工夫しながら取り組んでいること。

〈学校関係者評価書〉

1 全体評価

- 「学校が楽しい」という回答にとてもうれしく感じる。このまま続けてほしい。
- 「すべては子供たちの幸せのために」の合言葉に頭が下がる。しかし職員が幸せでないと子供も幸せになれない。もう少し先生を増やせるとよい。外部との連携を進めるなら、その「手＝人手」が必要ではないか。

2 観点ごとの評価結果

I 学校教育目標・学校経営について

- 多様な児童や保護者への対応が難しくなっている。地域社会と支援体制を組みながら、効果的な教育活動を推進していく。

II 学校運営について

- ベテランと若手のバランスが良いから、校長をはじめとするチームワークが良いのではないか。今後も教職員が協働しながら、日々の教育活動に邁進してほしい。
- アレルギーをもっている児童の保護者は大変苦労している。対応策が増えたらよい。

III 学習指導について

- 「分かる授業の創造」を、今後も続けていく。
- 地域の教育力を生かした指導をさらに広げていく。
- 習い事等で帰宅後の子どもたちは忙しくなっているのではないか。学校外での子どもたちのゆとりがほしい。

IV 生徒指導について

- 「先生と相談する機会が多い」の項目に肯定的な回答が多い。教員の気持ちのやさしさが出ているのではないか。今後も取組を進めてほしい。
- 将来への夢、希望を向上させるのは大切だが、今の世の中厳しい。外部との交流なども取り入れ、子供たちに刺激を与えてあげたい。
- あいさつがない子供が多い。「男性＝不審者」と思ってしまう子供もいるように感じる。マスクを外す人も増えてきた。顔を見てあいさつする取組を進めてほしい。

V 地域との連携について

- 地域の年中行事みたいなものがなくなっているように感じる。地域にとって子供たちは「宝」である。行事の中で育まれるものがある。保護者が忙しいのは理解できるが、PTAでも呼びかけて活動できたらよい。雪かきもそうだが、安全対策は全体で取り組んでほしい。

- コロナ禍が明けて、PTA 活動も活発になってきている。参集で実施できる機会も増えた。今後も協力しながら進めていきたい。

VI 学校の特色について

- 竜王小学校のよさを全教職員で共通理解し、改善・継承していく。
- 読書週間の絵本とのコラボ給食をととても子供が喜んでいて、子供は家でもたくさん話し、読書活動に繋がっていた。きっと大変だと思うが、ぜひ続けてほしい。

VII 創甲斐教育について

- 言語能力の向上、よさを伝え合う教育活動の推進、健康な体づくりの取組の充実を推進していく。

3 今後の課題として確認されたこと

- カリキュラムマネジメントによる確実な PDCA サイクルの実施と、教育課程の見直し、行事の取組に対する教職員の意識改革
- 学校体制で取り組む特別支援教育、多様化する児童のニーズに応じた合理的配慮
- 「チームドラゴン」の在り方
- 危機管理マニュアルの的確な運用と改良、保護者への発信
- 校内研究とリンクした日々の授業改善、研究への主体的な関わり
- 「個別最適な学び」「協働的な学び」を効果的に組み合わせた授業の実施
- 家庭学習と連携した主体的な学びの啓発
- 社会参画意識を高めるキャリア教育の実施、キャリアプランニングできる力の育成、キャリアパスポートの効果的な活用
- 安心安全な学校・学級づくりの継続と、問題行動の早期発見・早期対応のための組織連携
- 地域や外部機関の活用推進
- 安心メールと学校ホームページのより効果的な活用
- P T A 主催行事のさらなる活性化
- 協力者会議を中心とした地域との連携の活性化
- 学校の長所を伸ばし、短所を改善することによる教育活動の特色化
- 読書活動の継続と発展
- 教科等の授業時数確保と児童会行事の内容の再検討
- 様々な言語活動を通じた言語能力の向上
- お互いのよさを認め会える関係性づくりの発展

※特記事項

- 特になし

